

## 令和3年度

### 第1回 習志野市立秋津小学校 学校運営協議会 議事録

#### I. 習志野市教育委員会から

##### 1 辞令交付

##### 2 学校教育部より

入学式での、在校生からのメッセージ動画が良かった。

##### 3 連絡事項, その他

#### II. 学校運営協議会委員 自己紹介

#### III. 第1回学校運営協議会会議

##### 1 役員選出

小関：タブレット端末の混乱に対応できるように、wi-fi 環境や持ち帰り問題に対応できるようにしたい。情報に対する強みをもって会長に選出。

副会長として、芳地さん選出

小関：タブレット端末の導入、英語科の新設など先生方の悩みを聞かせてほしい。特に GIGA スクールを推進し、IT を推進するのは先生方の負担になるのではないか。どのようにしたら、負担軽減や共有ができるのだろうか。話し合っていきたい。

学校運営協議会の会規則に目を通していただきたい。会規則の 47 条の 6 は 5 の間違い？ 6 はない？文部科学省や習志野市のホームページにもあるので、目を通してください。

##### 2 報告事項

###### (1) 令和2年度 第3回学校運営協議会議事録

第3回 学校運営協議会は中止となった。

###### (2) 令和3年度 第1回パートナー会議議事録

(資料に沿って教頭が説明)

先日パートナー会議があり、校長より学校教育方針、教務主任より教育課程、行事、タブレットの配付について説明した。

##### 3 協議事項

###### (1) 令和3年度学校経営の基本方針について

## ・学校経営方針

(資料に沿って校長が説明)

秋津小に赴任できて、光栄。秋津小の魅力は、一つ目は子供たちの姿。授業中の姿を見ると、どの学習にも意欲的。二つは目は、地域とともに歩んでいる姿。三つめは教育資源の豊かさ。幼、小、中、高、大と教育機関の充実や、公共施設、谷津干潟の自然など。

学校経営方針は、国際社会に生きる力の育成。文部科学省によると、未来は外国人がその言葉で話しても理解ができるようなツールがあるらしい。そんな未来を生き抜く力を育みたい。そのために、秋津小の6つの柱を大切にしたい。中でも基礎・基本の定着を大切にしたい。タブレットの配付も踏まえて、アナログとデジタルの良いところをとっていききたい。

心豊かにするために、あきつ・あいさつ・ありがとうを大切にする。また、教職員の資質向上を図る。食物アレルギーに対する研修、公開研究会への研究、不祥事根絶研修などを行っている。知・徳・体を育んでいく。教育活動推進の4つのシステムを大切にしていこう。

## ・校内組織

各々の能力などを鑑み、組織として全力の出せるように組んである。

管理職や教務主任が各職員をしっかりと包み込んでいる。

学年は、ベテランと初若年層がバディを組み、ベテランがしっかりとサポートを行える体制になっている。

校務分掌では、初若年者が主任になることがある。そんなときは、全校職員が協力し合っている。タブレット配付で顕著にみられた。

大切にしていきたい3つのこと。職員の健康、児童の自己肯定感を高めるためにたくさん褒める、児童との信頼関係をしっかりと築いていく。

小関：文部科学大臣賞などを受賞している。みなさんも経験豊かな方だから安心です。パートナー会議で協力を仰いだら、すぐに協力してくれた。クリーン運動やグリーン運動などにすぐ協力してくれた。教育活動推進システムの各項目を見ると、できている部分とできていない部分がある。できているところは削除してもよいと思うが、まだできていないところも大きい。この4つは車輪のようにうまく絡み合っているのだから、大切にしていきたい。

江住：青少年センターだと、PTAのバトロール活動は青少年補導委員の推薦を学校にお願いしている。月に7、8回下校の見守り、月に1、2回は夜間の見回りをしている。何もないからバトロールしないのではなく、このバトロールが抑止力になっている。

本間：学校現場は若い人が増えている。若い人がすぐに役立てるかという点、なかなか難しい。だから研修は大切。ベテランの先生と組んでいるのはとても良い。逆にタブレット操作などは若い先生や子供たちのほうが早くなじむのではないだろうか。そういったところなど、ベテランと若手の力を合わせてやっていってほしい。

小関：秋津小は小規模だが、力を合わせてやっている。意見がないので、承認とします。

(2) 今後の活動方針について

(資料に沿って教務主任が説明)

・指導重点

学校教育目標に合わせて、3つの重点がある。秋津小のパワーアップスキルはすべての教科の中心となる書く・読む・話す・聞くの力を系統的に指導している。全職員で取り組んでいる。

先日の懇談会で家庭学習について、とんぼスタディを使って説明した。児童用と保護者用に配付し、説明した。時間は学年×10+10で学力向上を図る。

昨年度の学力は、ほとんどの学年で全国平均を上回った。とくに、意欲・関心は問題を解く過程で評価されるもの。これも高かった。今年も意欲・関心が高まる指導をしていきたい。

感染症対策として、習志野市からの新しい生活スタイルを守っていきたい。

学習指導要領の改訂もあり、それに準じて取り組んでいく。外国語活動、プログラミングの取り組みがある。時数は、朝はモジュールで15分の学習を授業時数としてカウントすることで、週に1回5時間の日が設けられた。

昼休みと清掃をセットにすることで、分散清掃を行っている。児童の半分が清掃、昼休みとすることで密にならない清掃を行っている。

道徳、外国語、プログラミングについて。昨年度から、特別の教科道徳として、道徳の評価が必要になった。道徳の評価がこれまでのように、所見の中ではなく、独立した。道徳的価値に基づいて行う。金曜日に全校で道徳に取り組んでいる。

外国語はボランティア2名と、専科と、ティーチングアドバイザーもいる。アドバイザーは教師の指導について指導をする。そうすることで資質の向上を図っている。

プログラミングは、パソコン室のパソコンで行っていたが、今年からは一人一台のタブレットを使って行う。理科のスクラッチも購入した。プログラミングでは、プログラミング的思考を深める、ICTの活用を深める、プログラミングを通して各教科の理解を深めるのが目標。

GIGAスクールで、休校でオンライン授業に活用するだけでなく、タブレットだからこそでできる授業の組み立てをしたい。従来の授業にタブレットを使って行うのではない。

思いやりのある子として、縦割りでの清掃や活動。しかし、コロナの制限によってこれまでの活動は難しいが、思いやりのある子を育てていきたい。

いじめの防止については、全校朝会での話や、手紙で知らせていきたい。

たくましい子は、体育科などを通して育てていく。

・活動方針（学校評価関係）

参観いただいた保護者や地域の方からの評価をもとに、次年度の活動に生かしていきたい。

・本年度の取り組みについて

吉田：現在のコロナ禍の中で、顕在化した問題はどのように解決するつもりなのか。学校だけではなく、市とも協力しなければならないこともあるだろう。タブレット等で、教師の負担も大きな問題だろう。タブレットは家庭で活用すると、家庭格差が生まれるのではないだ

ろうか。これらの問題に対しては、学校はどのように対応していくのか。コロナへの対応を今のうちから考えておく必要がある。文科省や市とも連携しながら、今のうちから考えておいてほしい。休校などあったら、家庭格差が生まれるのでは？どうするつもりか。

教頭：学校のコロナ対策としては、マスク、手洗い、うがい、ソーシャルディスタンスなどを継続して指導している。子供たちにも根付いてきている。秋津小は小規模なので、児童が密になりすぎないように過ごせている。授業中では、児童間の活動などは自粛しているところもある。

家庭環境格差については、市からのルーターの貸し出しがある。しかし、家庭の能力格差については、PTAでも話題にあがった。家庭教育学級での講義などできたらいいと思う。

本間：コロナで児童の体力が落ちているのではないか。外に出られないからか。新しい生活様式ではダメなことだけではなく、できることなども示している。タブレット端末の配付で視力の低下の問題もあるのではないか。問題提起をしている。

伊坂：タブレットは国でも、ソフトは市での用意になっている。校内のwi-fi環境は整っている。しかし、家庭での環境についてはルーターを貸し出す。その次として、キーボードはついているのか。キーボードがないと使いづらい。ソフトについては各市でも困っているだろう。まず、市としては、教員がここまでやってきて、自力で使いこなせるようになるには、ハードルが高い。指導課が主導で、指導できる人を派遣してはどうか。秋津小は小関さんがいるのだから、どこかの企業と連携して、ソフトを考えてはどうか。企業には、お金以外のお礼を。もしくは、千葉工大と連携しては。NPOを作ってもいいので。大学はNPO活動をするだけでもアピールでプラスになる。こういった戦略を考えてはどうか。組織を立ち上げるときは、大変だががんばっていきたい。

各校が研究の教科をもっているのだから、研究でやっていることはすごいがどうなのか。習志野市が全国平均を上回っていることは普通のこと。各研究教科でタブレットを使ってはどうか。それを市の全体で共有すれば各教科でのタブレットの活用の仕方がわかる。地域のサポート体制ができている学校は、新しいことに挑戦しやすい。

小関：去年のような休校はない？今のところはない？→わからない。

休校でのオンライン授業のためのタブレットでもあるだろう。タブレットにはデジタル教科書は入っていない。先生方での準備や課題が山積であろう。

吉田：市は学校にまかせっきりののか。

本間：タブレット端末の導入にあたって、支援員を派遣する。教員の技能の向上、それから授業の中でどのように活用していくのかを考える。GIGAスクール推進委員を各学校では決めて、その人を中心に推進してもらっている。

伊坂：グーグルのアカウントを子供に持たせているのか。アカウントをもたせてほしい。そうすれば、メールもできる。アカウントなどベースをしっかりとする。そうすることで、初めて教科の研究になる。

教頭：去年はZoomを使って、欠席している児童に授業の配信をしていた。ルーターも市から借りている。今も毎日配信している。

伊坂：教材などをクラウド上にしたらいい。そうすれば、児童も自由にアクセスできる。

教頭：去年も ICT 活用の研修などもしている。徐々に職員の技術のスキルアップもみられる。タブレットは児童は十分に活用している。タブレットではなにができるのかを職員も考えている段階。大型連休中も家で、動画を見て、運動会のリズムダンスの練習に使えるように考えている。

そのほかに、活用のみかかわらず、故障などの問題も考えられる。水筒の水漏れでタブレットにかかってしまうことがあった。ほかにも、学習機からの落下も心配。ランドセルの入れ方も反対にした。落下の防止に努めている。

芳地：学校と児童の段階であり、家庭では充電しただけ。学校と、子供はわかっているのかもしれないが保護者はわからない状況。手紙の用語も難しい。わからない人はわからない。思ったよりも重かった。1年生は持てるのか。家庭での格差もやはりあるだろう。Windows などのアップデートなども自動で行われている。問題が起きたときは学校を通さなければいけない。デジタル機器はトラブルも多いと思う。だから直接対応できるところがほしい。学校に言ってもよいものなのか悩んでしまう。先生の負担にたくない。

ポケットルーターの貸与があるが、1日2GBでは、オンライン授業へ耐えられないのではないかと。通信制限がかかってしまえば、受けられないだろう。

本間：タブレット端末は、総合教育センターが中心になっている。相談事項は、指導課と教育センターと協議しながら進めていく。

教頭：学校は窓口になる。本校では、2人態勢で取り組んでいる。

伊坂：デジタル教科書は、有効かは検証の段階。チームスを有効に活用して、職員会議をオンラインで行う。子供も、タブレット上でデジタルで動かせるように。全職員がチームスを活用できるように。それほど難しくないので。必要なものだけでも。リズムダンスなどは、見ることに重点をおくのではなく、共有することを重点に。

教務：研修で、いろいろなことができること聞いても入ってこない。自分が実際にやってみて、必要意識をもっていないと意味がない。市で研修を受けてもなかなか難しい。職員に広めていくには、まずは安全に取り扱えるようになってから。その後に職員のスキルを上げて、そして、子供のスキルを上げてから。1年生はクリックも難しい。校内の研修では、若年層研修で広めていきたい。

小関：タブレット推進はまだ始まったばかり。地域でも協力していこう。

伊坂：今の大学生がオンラインのスキルがあがっている。だいたい大学がチームスを使っている。その人たちがもうすぐ教員になっていく。

伊坂：文科省の評価と、学校での実態と乖離している。そのまま学校で扱うには難しい。保護者への説明も。学校はどうなのか。保護者は評定のほうばかりを気にしてしまう。大切なのは評価のほうなのに。そこを保護者に伝えていってはどうか。

教務：評価はこれまでの4観点から3観点になった。それに、通知表での文言はほとんどかわっていない。教師の評価規準は変わっているのに。それを保護者へ伝えていかなければ。昨年度は通知表の評価についての手紙も出している。道徳は、記述の評価のみ。教科書の道徳的评价によって。

伊坂：評価の文言がまだ具体的ではない。～ができたから、～。というのは難しい。文部科学

省のものをそのままはわからない。かみ砕いて、わかりやすく保護者へ伝えていく。

#### 4 その他

##### (1) 次回開催候補日

- ・ 第2回 11月25日(木)
- ・ 第3回 2月24日(木)